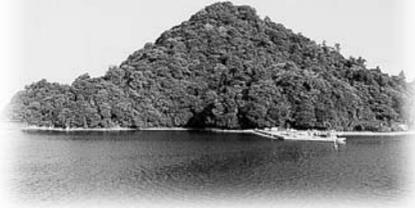


十神山



# 会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

〒692-0064  
島根県安来市古川町 534  
TEL 0854-28-9988  
FAX 0854-28-9393  
https://www.y-hozon.com/  
E-mail:admin@y-hozon.com

## 私と安来節

令和 8 年度 昇格者

### 財産になった 安来節



准名人  
吉野和夫  
(本部道場長)

私が安来節に関わったのは、同僚が安来節の教室に通っており、連れて行ってもらったのがきっかけでした。教室には、高野静子先生、門脇長市先生のお二人で開講されており、高野先生は初代渡部お糸さんの愛弟子だったそうです。十人ほどの生徒さんが座って指導を受けておられ、資格も無資格の方から准師範の方まで様々でした。会の始めは、教室の唄を全員で合唱して下の階級から指導を受けていました。高野教室では、町内で祭り等があると生徒を連れて順番に唄わせて頂きました。また、八月十六日には、安来節流しに連れ出して三味線を弾きながら唄って歩いた事など懐かしく思い出されます。それが安来節のスタートだったと思います。

習い始めて五、六年経った頃、青年団から「銭太鼓とどじょうすくい」で出演するので応援してほしい」と声が掛かり、県内からは多数のグループが出場されています。終了後、発表を見に行ったところ、安来グループが県代表に決

まっております。まさか、まさかの出来事でビックリしました。代表として夜行列車で東京まで行き、日比谷公会堂で発表させていただきました。また、これまでの海外での公演も忘れられない思い出です。ハワイで島根県物産展と公演があり、二代目遠藤お直さん姉妹と出演させていただき、最終公演後、島根県人会の集会にも参加し、大変喜んでいただけた事もありました。後年、ドイツ、ベルギーでの公演では、ひたたくりに遭ったり、航空券が二重に発行される等、日本ではあまり考えられない事案に遭遇し、大変驚きました。そんな事もありましたが、私達の公演が少しでも安来節の広報活動に貢献できたのではと思っています。

私の都合で、二十数年間、保存会に在籍するだけで活動をしなかった事は心苦しく思っていました。幸いにも職場の旧日立金属安来工場には、「民謡同好会」があり、私も一員とさせて頂いていました。この会には、名人の野坂亮利さんや西村利美さん、准名人の足立稔さん、野坂守男さん、糸賀忠義さん等の上位資格者の方々が在籍されており、大変心強かったです。女性の方もおられ、二代目遠藤お直さん等に銭太鼓や女踊り、しげさ節踊り等を指導していただいておりますが、先輩方が退職されると共に活動が出来なくなり、残念ながら活動休止から廃部となつてしまいました。この期間、安

来節との縁が切れていなかった事は、私にとつて幸いであつたと感謝しています。私も退職と同時に本部道場に復帰させて頂いていただき、保存会の一員として楽しませていただいております。

また、安来節演芸館に出演させて頂いた事も良い経験になりましたし、和歌山県で開催された「ねんりんピック」に、島根県代表として鼓で出場し、最優秀賞を頂いたのも大変良い思い出として残っています。

振り返ってみますと、安来節に出合った人生は、私にとつて最高の財産になったと思っております。今後は、微力ながら後輩の皆様方のお力添えになれば幸いに思います。

### 島根の宝 「安来節」



准名人  
野坂亮孝  
(湖陵支部)

この度、支部よりご推薦いただき、絃准名人を拝命する運びとなり、身の引き締まる思いと同時に導いて頂いた諸先輩の皆さま、今は亡き師、野坂亮利先生、また多くの方々との出会いに改めて感謝しお礼を申し上げます。

中学生時代に近所のおじさんが弾かれる三味線の音色が気になって仕方ありませんでしたが、進学により片道二十キロの道のりを自転車通学し、部活する身ではどうすることも出来ませんでした。二十代後半、ふとしたことで親戚の方に連れて行かれたのが現東海支部中村支部長のお父さん、藤原靖行先生の教室でした。「わあっ 三味線の世界だ！」もう三味線に触れるだけで感動ものでした。嬉しくて、のぼせて稽古したことを思い出します。習う程段々と難しくなり、唄う人によって節も長さも違い、音域の広さに戸惑い、アクロバティックに小気味良いリズムで打ち込む鼓など、

どれを取っても私の頭の中は？（はてな）マークで一杯でした。今振り返ってみるとその難解な安来節を演じる事が出来る私たちは幸せであり、これを継承し高めて行く責任があると思ひます。

変わりゆく時代の流れは止めることは出来ませんが、愚痴を言わずに楽しんで唄ったり演奏していれば、必ず何かの形で膨らんで残って行くのではないかと信じております。今までの出会いを大切に、「島根の宝」を大切に、これからも皆様と一緒に楽しみながら勉強させていただきます。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。



准名人  
野坂恵子  
(神門支部)

この度は、絃 准名人に昇格させて頂きました事、諸先生、先輩、支部の皆様、沢山の方々に厚く御礼申し上げます。

四歳の時に、父が通っていた安来節教室に付いて行き、魅せられ、神門支部に入会し、同支部の故原功准名人より絃の指導を受け、多くの指導者に恵まれました。

安来節全国優勝大会の少年の部では、数多くの優勝をさせて頂きました。昭和六十二年には、一般の部の二段、翌年には、三段で優勝し、さらに師範の部では、平成七年、九年、十年と優勝させて頂きました。



### 安来節との出会い



唄 大師範  
柴田みどり  
(益田支部)

この度、益田支部のご推薦をいただき、唄で大師範に昇格させていただき、身に余る光栄と同時に身の引き締まる思いで一杯です。諸先輩の先生方のご指導と支部の皆様、仲間の方々、家族に心から感謝いたしております。

安来節との出会いは、今は亡き出雲信子先生のお店に立ち寄った時、唄った事もない安来節でした。最初は、正座でテンポ、間違えるため膝を叩いて、出来なくても一生懸命でした。その後、三代目出雲愛之助先生に手解きを受け、慣れない節回しで、三味線に合わせる事が難し

かったです。平成元年に師範に昇格する事が出来ました。師範になってからの高いハードルで壁にぶつかり、勤めながら夜の稽古では上手な方のテープを何度も聞き直し、自分との日々戦いでした。

優勝大会では、会場に行くときたくさんの素晴らしい方々との出会いが嬉しくて、「また会いましょうね」の一言が頑張る励みにもなりました。

不得意な三味線も、平成十六年に師範に昇格する事が出来ました。その矢先に主人が病に掛かり、「協力出来る事はするから頑張れ」との言葉もあり、その甲斐あって優勝大会の団体の部で準優勝した事もありました。安来節が好きだから続ける事ができ、唄わせていただける事を幸いに思っております。

いつも、同支部の出雲美枝乃丞さんが心強い言葉を掛けてくださり感謝しております。大師範の名に恥じぬよう、これからも感謝の気持ちを忘れず安来節を楽しみながら、努力を重ねて精進して参ります。

### 安来節との出会い



唄 大師範  
金 築 章  
(本部道場)

私は、三十数年前、両手両足に力が入らないギラン・バレー症候群という難病になりました。しかも、その十年前に一度同じ病気を経験。世界でも例の無い原因不明の病気でした。一度目は、半年の入院治療で治りましたが、二度目は、半年寝たきり、半年リハビリの一年間の入院生活でした。初めは、鳥取大学付属病院で検査と治療後、リハビリ専門の玉造厚生年金病院へ転院しました。その時、目の不自由な年配の方と同部屋になり、親しくなりました。

ある日、その方が「申し訳ないですが、都合の良い時間に新聞を読んでもらえないかね?」と頼まれましたので、リハビリの合間に出来るので、良いですよと快く引き受けました。毎日

二時間二カ月ほど新聞記事の朗読を続けた頃、その方から朗読のお礼の言葉の後に「喉がつかれないね。その喉を何かに生かされたらどうですかね」と言ってく下さいました。その時は、何も思いませんでしたが、あとから、ふと、我がふるさとの民謡安来節が頭に浮かびました。その日から、退院した暁には、安来節を習ってみようとの思いに駆られ、毎日、今まで以上にリハビリに励みました。

そして退院後、平成八年に「みんなの安来節教室」に思い切つて参加し、故三代目安達順吉先生と出会い、その日からの縁で現在に至っています。特に思い出深いのは、平成十一年に唄一級の時、同じ生徒さんで現在は唄と絃の大師範の安達順子さんと優勝大会において、優勝できた事です。

さて、一月に五代目安達順吉を襲名された安達雅宏先生ほか諸先生方のご指導を賜り、この度、唄大師範に昇格させていただきました。身の引き締まる思いです。今後、皆様方への感謝の思いを忘れず、安来節保存会発展のため、稽古に励み、微力ながら貢献出来るよう努めたいと思っております。

今後ともよろしくお願いいたします。

### 私が一番好きなのは民謡? 安来節?



絃 大師範  
出雲美枝乃丞  
(益田支部)

私は、子供の頃から民謡が好きでした。島根県浜田市の山間部で生まれた私は、当時ラジオしか情報源が無く、ラジオから流れてくる「民謡をたずねて」と「音楽の風車」を聴くのが楽しみでした。中学生の頃、こぶしの面白さにはまり、斉太郎節、真室川音頭、ソーラン節等、ポピュラーな曲から覚えられました。

愛知県へ就職していた時、会社の箏曲部の先生に三味線と民謡の楽譜をお世話してもらい、独学で三味線を弾きながら唄っていました。ある年、会社の県人会の祭りで大東町出身の兄弟が父親の伴奏で銭太鼓を打つのを見た時、その独特のリズムに感動して、安来節だけは島根に帰って習おうと思いましたが、浜田に帰ってからは、安来節をやっている人の情報は無く、習う事も諦めていました。そして、益田市へ嫁いで三年目、長男を家の前で子守りしていたら、近所で安来節の三味線が聞こえ、子供の手が離れたら習いたいと思いました。それから四年、次男が幼稚園に入るのを機に入会しました。

昭和五十八年に初めて審査を受け、順調に昇格し、三段の時、故出雲信子先生に誘ってもらい、師匠の三代目出雲愛之助先生に習い始めました。平成元年に唄、絃で師範になり、平成三十年には唄で大師範に昇格させていただけました。

民謡も師範になった頃から正式に習い始め、故丸瀬一宇先生に勧められ、日本民謡協会の民謡教授の資格も取得しました。

今は、松葉会という民謡踊りを楽しむグループで益田市内のデイサービス施設の慰問等で、安来節や各地の民謡を唄ったり、弾いたり、踊りの地方をしたりして、高齢者の方々に楽しんでもらっています。

これからも仲間と一緒に、人に喜んでもらえる民謡を楽しく続けていけたら幸せです。そして、同時にせっかくなのでいただいた安来節の唄と絃の大師範の資格ですから、後輩にしっかりと受け継いでもらえるよう指導していきたいと思っております。

いろいろと考えてみますと、私が本当に好きなのは、安来節を含めたすべての民謡だという事に気付きました。これからも大切にしていきたいと思っております。

### 私らしく



絃 大師範  
岩田彩代  
(本部道場)

この度、絃大師範に昇格させていただきました。これもひとえに小池孝子先生をはじめ、皆さまのご指導とご支援あつてのことと深く感謝申し上げます。

私が安来節を始めたのは、テレビで見た『吉田兄弟の津軽三味線』への憧れからです。「私もあれ(三味線)がしたい!」その思いで通い始めたのが小池教室でした。小さかった私は、椅子に座ると足が床につかず唄から習い始め、祖母から受け継いだ三味線を弾くようになってからは、祖母お手製の足台を使っていたことを覚えております。学生時代は、毎週学校や部活終わりにお稽古に通い、「春になれば審査を受け、お盆には優勝大会に出る!」これが恒例行事でした。社会人になり体験したコロナ禍。安来節から離れた時期もあり、「このままやめてしまおう、そっと消えたら気づかれないだろう」と何度も思いました。それでも、ふと掛かる「元気にしちようかね?」の先生からの電話が思い留まらせてくれました。久々に弾く三味線の音色は練習してこなかった期間が顕著に表れ、聴いていたただくには大変恥ずかしいものでした。現在もコロナ禍前の状態に戻せているとは言えませんが、舞台上に上がる前に背を叩き鼓舞してください。昔から変わらない先生の手にいつも救われ、力をいただきながら舞台に立っています。

いつの間にか二十年以上、人生三分の二以上の期間を安来節とともに、小池先生とともに歩んできました。自由奔放で我儘、手を焼かせることしかありませんでした。それでも見放さずここまで鍛えてくださった先生には感謝してもしきれません。いろんな方が「あなたは小池さんの手と一緒にだ、小池さんの三味線はいいよ、大好きなんだ」と伝えてくださいます。その度に先生に出会えたことを誇らしく思うのです。いつか先生を超えられる三味線を弾きたい、まだまだ長い道のりになりますが技を盗みつつ、私らしく我儘を言いながらも先生とともに過ごしていくんだらうと思っております。

最後になりますが、ともにお稽古に励んでくださる教室の皆さま、支えてくれている家族に心より感謝申し上げます。『好きこそもの上手なれ』の言葉のとおり、嫌にならないよう、ほど良い距離感を保ちながら、今後ともよろしくお願いたします。



### 様々な舞台に 出演させて頂いて



踊 大師範  
小 谷 実  
(松江支部)

令和八年一月十二日の「唄い初め会」にて踊大師範に昇格させて頂いた、ありがとうございます。これも偏に多くの先輩の皆様、松江支部の皆様方のご指導の賜物と心より厚く御礼申し上げます。

昭和五十一年一月十五日に保存会入会(当時二十四歳)以来、三十六歳から復帰する六十四歳までの二十八年間、仕事の都合上、保存会活動を休ませていただいております。その間にも、①平成十二年「保存会創立九十周年記念博多座公演」、「まつりinハワイ公演」②「韓国密陽市親善訪問&EXS

### 安来節を習い 始めたきっかけ



大師範  
入 江 訓 子  
(本部道場)

近所の方から「公民館で安来節をやっているらしいから、一緒に行ってみない?」と、お誘い受け、子供も中学生になり自由な時間が出て来たので行く事にしました。当時、十人位の生徒さんがいて、今は亡き金山久夫先生が唄の指導をしておられました。みんな初めてなので一から丁寧に教えていただきました。当時は審査など受けておらず楽しく唄っていました。その後先生が安達久美先生に代わって、平

PO慶州公演③平成十五年「ほんばし島根館オーブンングイベントでの公演」④平成十七年「NHK第一回それいけ民謡」、そして昨年五月の「NHK民謡魂」と多くの大きな舞台に出演させて頂いた、貴重な勉強、経験をさせて頂いていただきました。今日でも日々思い出しています。また、多くの先輩の方々よりいただいた嬉しい教えを引き継ぎつつ、基本を守りながら、これからの保存会の未来を背負って立たれる若手の方々、その教えを分かりやすく、また自身の経験も出来る限り伝え、一人一人の「個性を生かした」「個性溢れる」自由な発想で観ておられる方々に「ああ、楽しかった」「ああ、面白かった」と幸せな気持ちになっただけ、享受しただけの踊りを発表出来るよう私自身も更に勉強、研究を重ね、微力ながら頑張っています。

これからの皆様方のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

成十年に唄の師範、二十七年に大師範に昇格いたしました。唄以外の種目もやってみたくなり、今は亡き橋本光世先生の所へ行き銭太鼓を教わり、平成十六年に銭太鼓も正式種目になり、初年度の審査は、どの階級を受けても良かったので、思い切って准師範を受ける事にしました。運良く合格でき、その後、平成十八年に師範になり、安来節演芸館にも出演させていた

く、銭太鼓以外の種目も習いたくなり、小池孝子先生の教室へ行き、三味線と鼓を習うようになり、毎週一回、他の二人の仲間と楽しく練習を重ね、両種目とも師範になる事が出来ました。今年、銭太鼓で大師範の免状をいただき、これからは技術の研鑽に励み、大好きな安来節、そして銭太鼓を続けていきたいと思っています。

## キミトミライ

〜勇気を持って、夢を追い求めよう〜

この度、「キミトミライ」勇気を持って、夢を追い求めよう」とのタイトルで、今号より若手会員が「伝統を守りながら新しい時代を切り拓く姿」を応援する目的で掲載いたします。自薦、他薦を問いませんので、若手会員のご寄稿や情報をお待ちしております。



佐藤菜々子(中1)  
(松江支部)

私が安来節を始めたきっかけは、よく覚えていません。父と母が私生まれる前から安来節をしており、私は母のお腹にいる時から安来節に触れていました。

小学校一年生から安来節保存会に入会、本格的に安来節の練習を始めたのはこの時からです。運動が壊滅的な私が友達のみになに誇れることの一つが「私は伝統的な民謡を唄えるんだよ!!」と言えるところでした。

今回、中学校の夏休みの課題として「アイテムはたらくすがた写真コンテスト」への作品応募させていただきました。私が選んだ身近で働く大人は、安来節演芸館の増田明美さんでした。いつもお客様を元気に、笑顔でお迎えし、自らステージで演芸を披露されるなど、増田明美さんは私の憧れの「はたらく大人」でした。「演芸館のマスクトガール!」と言う題名で、笑顔で接客される増田明美さんの写真を撮影、応募させていただいたところ、光栄なことに優秀賞を受賞させていただきました。

令和七年十一月、表彰式が東京で行われ、受賞された様々な作品を鑑賞させていただきました。トラックを運転する母親、近所



優秀賞受賞作品  
「演芸館のマスクトガール!」

### 伝えたい、私の「安来節」



に住む漁師など、様々な「はたらく大人」の姿がありました。その輝かしい作品達の中に、私の撮影した「演芸館のマスクトガール!」が並んでいました。全国から集められた安来節を全く知らない受賞者の皆さんが、私の撮影した安来節演芸館の様子を、足を止めて眺めてくださいました。

私は感じました。こうやって安来節を知らない人に、ほんの少しずつでも安来節について伝えていけば、それはいずれ大きな成果となるのではないかと。

安来節を伝える人ができるのは、なにも安来節を披露することだけではないと、私は思います。

ある時は身近な会話。ある時は私のように作品という形で、安来節について何も知らない人に「安来節の欠片」にほんの少しでも触れてもらうこと。それもまた、安来節を伝えるということではないでしょうか? 誰だって、物事を始めるきっかけとなるのは興味だと、私は考えています。小さな頃から安来節に触れてきたことで自然に育っていた安来節や伝統芸能への興味が、いまの安来節保存会会員としての私を作っています。そして、興味を持つにはまず知らねばいけません。「知る」ためには誰かが「伝える」必要があります。それが出来るのはきっと私たちだけではないでしょうか? 私はこのことを胸に刻み、これからも日々の練習だけでなく、私の安来節の欠片をたくさんの人に伝え、繋いでいきたいです。

## 支部情報

### 家元四代目渡部お糸先生による「安来節の手ほどき」を受講して

受講者一同



昨年の年の瀬の何かと忙しい十二月十三日・十四日の二日間、初日は大江戸支部、二日目は関東四支部合同で、お家元をお迎えして安来節の基本をご指導いただきました。お家元に直接ご指導いただく事など、関東に居住している私達にはあり得ないと思っておりましたが、縁あって来てくださる事になり、その日が来るのを首を長くしてお待ちしていました。当日、待ちに待ったお家元のご指導が始まりました。とてもわかりやすく、また楽しく教えていただき、難しく考えていた安来節が「これなら私達でも楽しく覚えられ、上達出来る:かも」という考えに変わった瞬間でした。

出来た事は大変楽しく、有意義なひとときでした。二日間を通して感じた事は、「お家元の安来節に対する思いの深さ」「正調安来節を心を込めて伝えたい!」という熱い思いのご指導に改めて感動し、尚一層頑張っていきたい:と心に誓いました。

支部設立100周年を迎えて



尾高支部長 矢倉 義法

『尾高支部 先人達が築いた道を継ぎ継いで、100周年笑顔と絆をモットーに後々までも後迄も唄い続ける 安来節』



昨年支部設立100周年を迎え、数少なくなった支部員(十二名)で、ささやかな祝賀、親睦の集いを行いました。支部設立は昭和元年、本部道場に次ぐ二番目に設立された事に身の引き締まる思いと同時に、諸先生方に依って築かれ育てられた支部を大切に引き継いで行く事が私達の責務だと痛感せざるを得ません。私が尾高支部に入会したのは昭和五十一年、当時は九十人近くの支部員でしたが、民謡ブームの衰退、コロナ禍の影響、会員の高齢化等で徐々に減少し(現在十三名)今に至っており、非常に心を痛めております。毎年事業計画に会員の勧誘を募ることを目標にしておりませんが、なかなか遂行出来ません。団体戦も組めなくなつた弱小支部ですが、私が入会して半世紀の間に、資格審査員二名、名人一名・准名人四名・大師範延六名・師範延三十九名を搬出する等技倆の高い支部だと誇りに思っております。毎週の練習会だけで無く、年に一度の研修旅行も十八年間続きました。宿でももちろん、行帰りのバスの中での特訓は圧巻でした。今となつては良い思い出です。

祝賀会は、先ず矢倉紀子准名人に依る安来節(前書き安来節)の披露で始まり、次に先輩より古き時代の支部練習会の様子を聞き、懐かしく又その当時の支部員の名前が出る度に当時を忍び話に花が咲きました。続いて何時もの様に無礼講で自由に安来節を披露し、最後はもちろん全員で安来節の合唱で締め、お互いに親睦を深めた有意義な祝賀会でした。終わりに今日まで支部を育てて下さつた保存会の諸先生方、関係者各位に感謝の気持ちを捧げます。これからも、安来節の普及、発展に支部員一同頑張つて精進したいと思います。

会員の声コーナー

安来節ボランティアで感謝状を授与



東北支部長 清野 勝利

令和七年十一月二十九日、仙台市に隣接する富谷市の社会福祉協議会から、東北支部が感謝状を賜りました。授与の決定は、安来節により各組織や多くの施設で福祉的貢献に努められたのが理由だそうです。遠く離れた安来市の伝統芸能を、

宮城県の方々に披露することで表彰を受けたことは、安来節に対する高い評価の証拠と、東北支部の会員一同と恐懼感激しております。また、この事実を安来節保存会会員の皆様にご報告するとともに、安来節の技倆を伝授してくれた先生方に厚く御礼申し上げ、更なる安来節の伸展に尽力する所存であります。



事務局からのお知らせ

この度、安来市がふるさと納税総合サイト「ふるさとチョイス」で「ガバメントクラウドファンディング」を令和8年5月1日より7月末までの期間で開始する予定です。

本プロジェクトは、民謡「安来節」の全国大会「安来節全国優勝大会」を通し、安来節の愛好者や失われつつある活気を取り戻し、この大会の継続と伝統芸能「安来節」を後世に繋いでいくことを目的としています。

詳細につきましては、プロジェクトのホームページが出来次第、当会ホームページにて掲載いたします。

皆様方のご寄付が大会継続並びに安来節の存続に繋がりますので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

※寄付額に応じて、返礼品を受け取ることができます。(安来市外の方のみ) ※通常のふるさと納税と同様に寄付金控除を受けることができます。

令和8年「唄い初め会」支部競演成績

(令和8年1月12日)

安来市長賞	関西支部
安来市議会議長賞	加茂支部
安来市観光協会賞	平田支部
安来商工会議所会頭賞	関東支部
BSS山陰放送賞	和歌山支部
足立美術館賞	湖陵支部
家納喜賞	松江支部
スポーツショップまつもと賞	飯南支部

「唄い初め会」の実施にあたり、趣旨にご賛同をいただいた多くの方から御協賛を賜りました。御協賛をいただいたすべての皆様に心より御礼を申し上げます。ここでは、御協賛者の方をご紹介します。

御協賛者氏名 (順不同)	
本部道場 一字川 勤 様	益田支部 様
本部道場 今岡 淑子 様	益田支部 出雲 正之助 様
松江支部 様	益田支部 山崎 真由美 様
松江支部 二代目 松尾 英興 様	益田支部 石本 紀美子 様
松江支部 二代目 高山 保子 様	尾高支部 様
松江支部 渡部 泰孝 様	境港東支部 様
湖陵支部 様	東伯支部 様
平田支部 様	広島東支部 様
神門支部 様	関西支部 様
飯南支部 様	和歌山支部 様
斐川支部 富田 郁徳 様	(有)出雲文化企画 様
大社支部 様	

この度、関東支部の故若岑緑峰様(令和8年2月1日ご逝去)よりご寄付がありました。

寄付金 三万円

ご寄付につきましては、今後、安来節振興のために活用させていただきます。誠にありがとうございます。

安来節しおり・会員証の価格改定のお知らせ

会員の皆様には、大変心苦しいお願いとなりますが、近年の急激な物価高騰に伴い、安来節しおりと会員証の価格を改定させていただくこととなりました。

また、会員証の再発行につきましても、別途料金を頂戴させていただきます。

会員の皆様におかれましては、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

◆会員証(令和8年10月1日発行分より) 700円 → 800円 ※再発行の場合は、1,000円

◆安来節のしおり(令和8年度版より) 800円 → 1,000円

計報

三代目砂川清さん(八十二歳)が令和七年十二月六日逝去されました。三代目砂川清さんは、今日まで安来節保存会に多大なご功績を残されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

感動を呼ぶ 音色と響き 丹念な加工 調整 仕上げ

(有)仁ホ三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1

TEL 090(5782)7408 FAX 045(741)4796

HP <http://www.syamisen.com/>

# 「受審の手引き」 (保存版)

資格審査委員会と指導部会が合同で作成された「受審の手引き」を掲載いたします。  
会員の皆様の技量向上にご活用いただければと思います。

## 唄

唄の歴史は、北前船がもたらしたおけさ、ハイヤ節などの唄と、中海あたりで唄われていた「もん葉節」が合わさり、さんご節の原形が出来たとされています。この唄が、大正、昭和に全国に知れ渡ることになって、洗練され、節が完成しました。その過程で、浄瑠璃、浪曲の伴奏に影響され、語りの特長を取り入れた独特の民謡になりました。歴史は大切な教科書で、基礎と共に稽古に欠かせない重要な知識です。

### 1 歌詞の表現について

- 唄い方の決まりに、押し、振り、振り止め、突っ込み、落としの大切な技術があり、この技術を理解しましょう。(素唄「安来千軒」を例に説明します。)  
イ 押し：一節前段、3文字目 **ギ** は腹筋を使って声を強く**押し**て節を延ばす技術。  
ロ 振り：続いて押したままの力で母音 **イ** に**振り** (コブシ) を入れる。押す力が弱いと振りの出来が悪くなります。  
ハ 振り止め：振り (コブシ) のあとに **イーイ**～**イ** と**振り止め**をして、前段を締める。  
ニ 突っ込み：一節後段3文字目 **ゲ** に力を入れ母音 **エ**～**エ** と**突っ込み** (息をつめる節目) をして、**ン**～**ン** の**落とし**をします。
  - 「**落とし**」とは、歌詞の表現を締めくくる節(フシ)のことで、ていねいに唄う場所。  
イ 一節の終わりの音階を三つ程度のコブシで一定のところまで下げること。  
ロ 一節の終わりの中節(なかぶし)の終わりなどに、この技術が使われます。
- ◎ 以上の点は、息継ぎに必要な技術と次の唄い出しに大切な技術です。

### 2 発声について

- 発声について  
声小さい、声の伸びがない、出した声の高さなどに無理がある。安来節を唄うために適切な発声がされていない。このような状態があります。この解決としては、  
イ 声帯は、肺から出した空気を当てて声にします。息の強さで声の響きと大きさが変わります。喉の仕組みを理解しましょう。  
ロ 口腔は、喉の奥を含め口の中のこと。口腔を大きく広げ、声帯から出た声を共鳴させます。口の開け方が小さいと共鳴しないので声も小さくなります。  
ハ 舌の位置や口の形を調整すると、発音が明瞭になり声の伸びと響きが出ます。
  - 活舌について (別表、発音トレーニング表を参照。)  
言葉を表現することは、世界でも大変難しいと言われる日本語。滑らかに発音しないと意味が伝わりにくいので、訓練の仕方を簡単に述べます。  
イ 母音の5つと、子音を組み合わせた23段の発声練習のテキストがあります。これを時間がある時にいつも稽古をする心がけが大切です。  
ロ 口の形と舌の位置。これは、活舌に欠かせない項目です。  
・口を大きく開けて「ア」と発音します。このとき口腔が大きく開いていることを意識します。(口だけではありません。喉の奥も開けます。)  
・「オ」を発音する。舌の付け根を下げる意識で、舌の付け根に息を当てるつもりで発音する。  
・「ウ」の発音は「オ」のまま舌を前にずらし、口を少しつむぎ発音する。  
発音する口の形は、口の中の無数の筋があってわかりやすい説明は難しいのですが、大きく口を開けることで小さな声帯の声が増幅され、大きな声になるので、これを心がけると効果があります。ためらわず大きな声を出して、変化を確認しましょう。
  - 腹式呼吸について  
呼吸の仕方が悪いと、息が足りなくて歌詞の終わりまで声が出ないとか、音程が悪く三味線の音と合わない、歌詞がわかりにくい、などの原因になるので大切な技法です。  
イ 呼吸は、息を吸うときにおなかをふくらませ、おなかに力を入れて吐く呼吸法です。  
ロ 訓練法は、仰向けに寝ます。ひざをたて、両手で下腹部を強く押しながら息を吐く。次に、両手の力を抜きながら「ハッ」と息を吸い込む。同時におなかをふくらませる。これを繰り返して訓練をします。
- ◎ 腹式呼吸は、習慣になるまで期間がかかります。日常、息を吸ったとき腹をふくらませ、吐いたとき腹をへこませる意識を持つことを勧めます。

### 3 テンポについて

- 唄のテンポが悪く、各節の間(マ)の取り方が悪い。原因は次のことが考えられます。  
イ 歌詞の一文字一文字を明瞭に発声していない。つい先に進んでしまう。  
ロ 歌詞の一文字とその次には、一定の間がある。この間が狭い。  
ハ 発声が悪いと歌詞が流れ、区切りのあるテンポがとりにくい。

### 4 唄い方について

- 声が優れている、節が上手いだけでは聞く人の心に響かないのが安来節です。歌詞の面白さと、説き伏せるような唄い方で全国の人気を集めた安来節。いろいろな声と唄い方で広まった安来節を考えて、今後の稽古に生かしましょう。
- 唄い方で大切なことは、唄っている歌詞に気持ちを込めて表現すること。そのために歌詞の意味を伝える表現を研究すること。テンポについて、歌詞は、手拍子の通りについていないところもあり、その所が安来節の「味」となっています。安来節の特長と基礎を学びます。簡単に唄えない安来節のポイントを知ることが必要です。
- 審査の結果、唄いこなせていない歌詞「ボタン節」を例にします。  
イ 二節のあと息を吸うことは素早く、半拍早く三節に入る。  
ロ 唄い終わりは歌詞がわかりやすいように「押し」て切る。
  - 歌詞全般について  
イ 一節前段終わりの振り止めが弱く、後段の入りが半拍遅い。  
ロ 一節の後段の突っ込みを工夫し、ていねいに落とす。
  - 歌詞がわかりにくい人が多い。  
イ 各節の初めの言葉は強くはっきりと唄う。(ただし歌詞の意味を考えて違う場合もあります。)  
ロ 歌詞を十分理解していないので、表現する気持ちが弱い。「気持ちを込めて唄うことを稽古しましょう。」
  - 早いテンポのどじょうの唄が粗雑。  
イ 基本は、正調の素唄と同じ。  
ロ 速さに合わせ、節と歌詞をていねいに唄う。歌詞が粗雑だとテンポも悪くなる。

## 絃

三味線を演奏するために、大切な要素となるのは重心が片寄った三味線の形状にあります。これを自然に膝の上に収める正しい姿勢が重要です。この形によって音色、テンポなど演奏に影響があります。そのほか、基礎テキストにある「構え」「バチの持ち方と振り方」「左手の構え方」の内容が詳しいので、参照してください。(会報安来節第60号・安来節保存会ホームページに掲載あり)

### 1 正しい姿勢が取れていない

「形だけではなく演奏の仕上がりが左右します。」

- 勘所が悪い。(三味線の構えが正しくないと、左手に余分な力が入る。ツボを押さえる指の形が悪い、など演奏に支障が出ます。)
- 胴を右手で押さえる形。バチの振り方などに多くの不都合が出ます。

### 2 調絃が悪い「調絃の不良が目立ちます。」

- 演奏の(い)の一番に準備をするのが調絃です。これが出来なければ演奏になりませんので、ていねいに音が合うまで調整します。
- 調絃が正しいかどうかはどんな解説書にも書かれていません。調子笛と絃との音質の違いを聞きなれることが大切です。指導者の手助けを借りない努力をします。
- 正確な調絃は、稽古量が少なければ調絃の機会も少ないので、調絃が出来ないことと稽古量は比例します。
- 本番の舞台で、微調整が出来るように心に銘じて調絃の稽古をしましょう。

### 3 バチの振り方が悪い

- 皮の決まった場所に当たっていない。原因として考えられるのが、  
イ 糸に当てる意識が強い。  
ロ 小指が皮に当たっていない。  
ハ 小指が駒の前に当たり、それを止めないで小指が駒を越してずれている。
- 振りの高さが低い。(重ね、チリテン、ツテンなど失敗の原因になります。)
- 親指に力が入りすぎている。(重ね、チリテン、ズドンなどの失敗。どじょうのリズムがとりにくいなどの原因になります。)(重ね=二枚バチ)

### 4 胴の押さえが悪い

「胴の押さえが悪いと悪条件が重なります。」

- リズムが不安定、音がしっかりしていないなどの原因になる。  
ロ ひざに対し、胴の位置が内寄り、必要以上の力で胴を押さえている。  
ハ 胴は手前に倒す。倒す角度が悪く、胴掛けのすべり止めと、胴下のすべり止めの効き目がなく安定しない。  
ニ バチを持つ力と、振るために余分な力が入る原因になる。
- ホ 胴のすわりが悪く、必要時間の演奏が出来ない。  
「胴の位置を頻繁に修正している。」  
(胴を安定させる押さえ方の詳しくは、表題の会報「基礎テキスト・構え方」を参照してください。)

### 5 タメが不足している

- 演奏は義太夫と浪曲の影響を受けています。キレがあつて勢いのある伴奏が特長で、唄を引き立てています。特に、キレのある伴奏は間(マ)が良いことは当然ですが、そのために「タメ」のとり方を学ぶことは重要です。「タメ：バチを振り下ろした時に取る間(マ)のこと。」
- 振り下ろしたバチが、皮に当たっている間(マ)が少なく、次に進むとせっかちなリズムになります。
  - 出した音色を消してしまう。(指の離れが早い。)  
・ツボをしっかり押さえて、響きを聞いてから次へ進む。  
・「ン」という間を感じて次のツボに進む。

### 6 テンポの乱れがある

- 体や気持ちで知らずにテンポをとっている。  
・重ねバチの失敗、リズムの片寄りの原因になる。  
・間違った安来節のイメージを持っている。
- バチに余分な力が入っている。  
・前項で説明した胴の押さえ方を学ぶ。

# 鼓

鼓はただ打ち鳴らす楽器ではありません。1300年前に書かれた古事記に出てくる歴史がある古い楽器です。

演奏は様々工夫されています。鼓が安来節の伴奏に加わったのは、大正の終わりから昭和の初めの頃で比較的新しい誕生です。伴奏として定間だけではなく、半間を打つのは大小二丁の鼓を操作するようになってからです。それから安来節はそれまでと違い勢いが増えました。この鼓の生い立ちを考えて打ち方を工夫しましょう。

小気味よい間(マ)のとり方で打つ音色は、会場を黙らせ注目させるに十分の緊張感を伝えます。三味線のリズムを待つ、唄を聞くなど一瞬のずれでこの雰囲気は壊れるので、リズムは鼓が作る意気込みが必要です。しおりの基本だけでは技倆が狭いので、三味線と唄にとって都合の良い間があれば打ち込む創作が必要です。(2/4拍子で構成された安来節は、聞きなれていない前間奏のどこでもテンポを取ることが出来て、打ち込みが出来ます。)

## 1 舞台の演出が不足している (鼓の役割を理解する。)

- 1) 気迫が足りない。
- 2) 鼓の役割、全体の芸を引き締める意欲がない。緊張がある間を表現する。
- 3) 掛け声がない。あっても聞こえない。(気迫を高めるために掛け声は欠かせない。)
- 4) 即興で打ち込む技倆が不足している。

## 2 リズム

鼓の最大の使命は正しいリズムを取ること。

- 1) 定間が正しく打てない。
    - イ 演奏のリズムに気持ちに乗っていない。
    - ロ 定間だけ長時間打つ力が不足している。
  - 2) 半間が打てない。
    - イ 半間が打てないことは次のステップ(昇級)に進めない。
    - ロ 半間とは定間の間。三味線が定間のリズムであれば、そのパチの間に打つこと。
  - 3) 半間のとり方と訓練方法。
    - イ 口鼓を覚え、半間の稽古をする。
    - ロ 一定の歩幅で歩き、それに合わせて口鼓を合わせる。(指導者によってはこの方法以外に稽古法があるかもしれません。)
- ◎ 歩みは三味線の定間に当たり、口鼓は歩幅のあいだに合わせる。この稽古を続けることで半間の打ち方がわかり、身に付けることが出来ます。

## 3 演奏法

- 1) 音色が悪い。
  - イ 調(しらべ)の仕立てが悪い。(皮の張りしりを計算しておかないと、音色調整に困る。)
  - ロ 調の使用、タイミングが悪い。(打つ、ゆるめる、締めるのタイミング。)
  - ハ 鼓に当たる場所で音の質が違う。この配慮が足りない。
  - ニ 手のひらが広がりすぎて、打った音に締まりがない。
- 2) 打ち手の振り方が悪い。
  - イ 打つときの手の角度、腕の使い方が悪い。振り方で当たる場所が違う。(場所によって音色が違うことを学ぶ。)
  - ロ 打ち方は手首の力が入りすぎ。余分な力が入らない腕全体で振る稽古を。
  - ハ 振る力が強く、良い音が出ない。(皮に当たる感触を感じていねいな打ち方を。)

## 4 姿勢

- 1) 正しい姿勢が取れていない。
  - イ 二丁鼓の姿勢はもともと無理な姿勢で完成されている。この姿勢になれる稽古を積む。
  - ロ 姿勢が演奏に与える影響。正しい姿勢の演奏は、勢いを感じ舞台構成を締める。

# 踊

もともと、どじょう掬いの踊は、日常の作業が宴会芸になったと言われています。現場をリアルに表現して、同じ経験をしている人たちが見て共感したので人気になった芸です。現代は、その環境に遠い人たちが見る舞台ですから、詳しく現場を研究し、強調して初めて理解される芸になります。研究と強調することが芸に求められています。

## 1 芸を見せる意欲が弱い

- 1) 踊る目的の自覚が不足している。
  - イ 見て楽しませる気持ちを強く持つ。
  - ロ 現場を強調して表現する。
  - ハ 動きの中に、タイミングの良い静止が笑いを誘う。

## 2 歩き方が悪い

正しい歩く姿勢は、腰の高さを言います。ひざと腰をくの字に曲げたときに歩く姿勢になります。

- 1) テンポをとった歩き方をします。歩いているところは舗装された道ではないので、現場を腰の使い方と表し、足と腰で裏表のテンポをとる。
- 2) 足早に出来ないぬかるみは、歩くテンポを工夫して雰囲気を出す。
- 3) 稽古を重ね、三味線のリズムに合う歩くコツをつかむ。(歩きは、寝食を忘れるくらいの稽古でつかみ取れる芸です。)

## 3 表現が悪い

- 1) 田や川の風景(現場)の表現が弱い。
- 2) 自分本位の動きで、唄のリズムに合わない。
- 3) 所作は何をしているのか判明しにくい。(動きにけじめをつける。動きと動きの間に表現を説明するための間を取る。)
- 4) ザルの持ち方。水と泥を押し切る力の表現が弱い。(泥と水を押して追い込むときの力強さが必要。)
- 5) ザルにどじょうを足で追い込む所作に真剣さが足りない。(どじょうは神経質で鋭敏な動きをする。素早く真剣に追い込む。)
- 6) 取れたとき、ザルをゆする動作の説明が弱い。(一緒に掬った泥を洗い流すには、ザルの底は水につかっているため、ザルの重さの表現と地面(舞台)との離れ具合が大切。)
- 7) 前の動作と次の動作のつなぎに、次に掬い取る意欲が感じられない。
  - 踊の一つの節が終わって、次の節に入る時、はっきり始末(メリハリ)をつけて次の動作に入る。

## 4 顔の表情で芸が豊かになる

- 1) どじょうが取れた時のうれしさ、ヒルが吸い付いた時の情けない嫌な表情、その後の処理などの説明を丁寧な所作で表現する。ヒルが血を吸った後はかゆくなる。その他多くの現場説明を表情豊かにしっかり訴える。
- 2) 舞台に出たときに、あいさつ代わりに行う、こだわりのない笑顔は、見る人を引き付ける芸です。楽しませる顔の表情はもっと工夫しましょう。

# 銭太鼓

舞台では、「銭太鼓は、地方を従えた一人芸。華のある芸は気持ちを高揚させる。」

だれが見ても良し悪しがわかる芸です。優れた芸を演じるとき、わずかな乱れが大きく影響するので、小さな注意が大切です。

## 1 回す技倆不足 (回す稽古が、上達の最大の条件。)

- 1) 稽古不十分。
- 2) 受けた筒の、キレのよい銭の音が確認できるまで稽古する。
- 3) 回すテンポに遅れがありキレが悪い。
  - 回し方のコツをつかむ。筒の重心は動かさず、筒の下側を押して上側を手前に倒す。
- 4) 回す速さ。2/4拍子の三味線のテンポにあう速さで回転させる。

## 2 リズム

- 1) リズムのとり方が悪い原因。
  - イ 自分の手順に気を取られ、三味線、鼓のリズムに注意をはらっていない。
  - ロ 唄のリズムを聞いてテンポのずれが出ている。自分で唄っている人もいる。
  - ハ 早打ちに入り、早く打とうとする気持ちが強く、三味線より早くなる。
- 2) リズムのとり方
  - イ テンポをとる場所の一つは「床をつく」。床についている間が少ないと、早く進みリズムのズレになる。
  - ロ 床を打ってしっかりリズムを取る。
  - ハ 早打ちのリズムについていけない。
    - ・主な原因は稽古不足で起きる失敗で、回す速さになれていない。
    - ・三味線のリズムに気持ちに乗っていない。
  - ニ 一定のリズムを取る、例えばメトロノームに合わせた稽古、手拍子を打ってもらい合わせる稽古、など三味線以外でリズムを取る稽古を重ねる方法も有効です。
- 3) 裏間打ちが入り失格となる。
  - イ 裏間とは、三味線のバチは表間を演奏している。バチの音の間に銭太鼓が床につき、裏間になる。
  - ロ 確認の方法は、メロディーに合わせて手拍子と銭太鼓を打てば確認出来る。
  - ハ 裏間になる原因は、平素から三味線のメロディーに合わせる稽古を。自分本位にならない。(メロディーが聞こえていない。)
- 4) 裏間打ちにならない方法。
  - イ 稽古十分で、自分の所作に気を取られず、三味線と共に打つ気持ちになる。
  - ロ 「芸を見せる気持ち」を、たくさんの稽古でつくる。

## 3 姿勢

見てもらう気持ちが前面に出れば、自然と正しい姿勢になる。自分の芸の目的をしっかり持つこと。

- 1) 姿勢が悪い。
  - イ 不自然な姿勢で打つと芸が小さく、落下、リズムのミスなどにつながる。
  - ロ 芸が小さく見栄えがない。大きく見せるための注意として、角度、幅、高さを保つ。
  - ハ からだの芯が揺れて頼りなく見える。しっかりした振り付けは、自信のある演技に見える。

## 4 自信のある表現が不足している

- 1) 手順に自信がない。
  - ・しっかり覚えた手順で演技しないと、十分な表現が出来ない。
- 2) 回しの稽古不足。
  - ・銭太鼓の原点の回しが不十分で、豊かな表現はできない。
- 3) 弾みの良いリズムのとり方。
  - ・しっかりした心構えを持ち、無心で三味線リズムと競演する心構え。

## 別表

### 〈発音トレーニング表〉

ア	エ	イ	ウ	エ	オ	ア	オ
カ	ケ	キ	ク	コ	カ	コ	
サ	セ	シ	ス	ソ	サ	ソ	
タ	テ	チ	ツ	ト	タ	ト	
ナ	ネ	ニ	ヌ	ノ	ナ	ノ	
ハ	ヘ	ヒ	フ	ヘ	ホ	ハ	ホ
マ	メ	ミ	ム	モ	マ	モ	
ヤ	エ	イ	ユ	エ	ヨ	ヤ	ヨ
ラ	レ	リ	ル	ロ	ラ	ロ	
ワ	エ	イ	ウ	エ	ヲ	ワ	ヲ

キャ	ケ	キ	キュ	ケ	キョ	キャ	キョ
シャ	シエ	シュ	シエ	シヨ	シャ	シヨ	
チャ	チェ	チュ	チェ	チョ	チャ	チョ	
ニャ	ネ	ニ	ニュ	ネ	ニョ	ニャ	ニョ
ヒャ	ヘ	ヒユ	ヘ	ヒョ	ヒャ	ヒョ	
ミャ	メ	ミ	ミュ	メ	ミョ	ミャ	ミョ

ガ	ゲ	ギ	グ	ゴ	ガ	ゴ	
ギャ	ゲ	ギ	ギュ	ゲ	ギョ	ギャ	ギョ
ザ	ゼ	ジ	ズ	ゾ	ザ	ゾ	
ジャ	ジェ	ジュ	ジェ	ジョ	ジャ	ジョ	
ダ	デ	ヂ	ヅ	ド	ダ	ド	
バ	ベ	ビ	ブ	ボ	バ	ボ	
ピャ	ペ	ピユ	ペ	ピョ	ピャ	ピョ	